

10年ぶりとなる新規採用を判断

今後は新庁舎による、安定的な区民サービスの実現をめざす

作業計画の特徴

葛飾区における作業計画の特徴は、「不燃全域を直営で実施」「指導は分室に2班、事務所に1班」「車付指導班を分室に3班」「可燃は直営車の6組と新大の2組分を直営で実施」「高齢者訪問収集は軽小型にて全域直営での実施」となっています。可燃と容りプラ

葛飾区は、2020年度をもって奥戸分室（奥戸中継所）が廃止となり、2024年度からの運用を目指して新庁舎の建設が順調に進められています。新庁舎では、再資源化施設を要求しています。現在、収集は新宿分室に集約され、区役所敷地には清掃事務所・車庫が配置されていますが、2024年度からは新庁舎にて1か所での事業執行の予定となっています。

3年ぶりの対面による定期大会で意思統一

葛飾支部は昨年6月11日に第13回定期大会を開催しました。「来年度こそは新規採用」をメインスローガンに、確実に再開させるための意思統一を図る決起大会となりました。

新たな体制について 労使合意

2008年の新規採用にあたり労使で「清掃事業のあり方」協議を行い、2038年度を見据えた人材育成計画を労使合意しました。それに基づき2008年度からの新規採用が始まりましたが、2016年から区の政策的な方針等により新規採用が見送られてきました。しかし、人員確保と業務継承のため2017年から再び労使での検討を重ね、2020年度に「清掃事業執行体制の見直し」について新たな労使合意に至りました。2022年度は新規採用が

区移管以後、葛飾区での新規採用は2008年に5人、2010年に4人、2013年に4人が採用されましたが、最後の新規採用からすでに10年が経過し、職員の平均年齢は高齢化の一途を辿り年齢バランスも歪になっています。

行われることを期待しましたが、実現することはできませんでした。これによって2022年度の人員計画では指導で2人、収集作業で1人の欠員が生じ、通年による会計年度職員で穴埋めをする事態となっていました。

新規採用を再開

2022年6月、現業統一闘争の一環である「清掃職員の人員確保に関する要求書」に基づく交渉では、当局から「高齢層職員のあり方を整理したうえで、来年度の採用に向けて、関係部署との調整を含め、所要の事務手続き等を進めてまいりたい」との前向きな回答を引き出し、組合からは「来年度の採用選考に必ず間に合うように」と精力的に協議を重ねてきました。

転換期を全組合員で 冒頭記載したとおり、

2024年度からは新庁舎による一か所での事業執行が予定となっています。支部としても長年続いていた要求がようやく実現されましたが、この大きな事業の転換期を全組合員の力をあわせて頑張っていきたいと思っています。

た。定年年齢の引上げ初年度となる2024年度から大量退職が始まります。葛飾支部では新規採用と定年延長問題は一体のものとし、交渉を進めてきました。厳しい協議を経て、労使による「清掃事業執行体制検討委員会」で内容について合意し、ようやく2023年から新規採用を再開することができました。今後は収集のみならず、運転職の人員確保のため、交渉を強化する必要があります。

いま No.45 清掃事業は… 葛飾区



▲新庁舎イメージ図

2022年度は新規採用が0人、2023年度は新規採用が1人、2024年度は新規採用が2人と見込まれています。葛飾支部では、2024年度からの運用を目指して新庁舎の建設が順調に進められています。新庁舎では、再資源化施設を要求しています。現在、収集は新宿分室に集約され、区役所敷地には清掃事務所・車庫が配置されていますが、2024年度からは新庁舎にて1か所での事業執行の予定となっています。

区移管以後、葛飾区での新規採用は2008年に5人、2010年に4人、2013年に4人が採用されましたが、最後の新規採用からすでに10年が経過し、職員の平均年齢は高齢化の一途を辿り年齢バランスも歪になっています。

行われることを期待しましたが、実現することはできませんでした。これによって2022年度の人員計画では指導で2人、収集作業で1人の欠員が生じ、通年による会計年度職員で穴埋めをする事態となっていました。



▲現在の開け場の様子（民間施設）

た。定年年齢の引上げ初年度となる2024年度から大量退職が始まります。葛飾支部では新規採用と定年延長問題は一体のものとし、交渉を進めてきました。厳しい協議を経て、労使による「清掃事業執行体制検討委員会」で内容について合意し、ようやく2023年から新規採用を再開することができました。今後は収集のみならず、運転職の人員確保のため、交渉を強化する必要があります。

組合員の労働条件の向上を

60歳以降の職域の確保をグループ討議

関東甲地連現評 2023活動者集会



▲関東甲の仲間とグループ討議

自治労関東甲地連は1月21日から22日にかけて、東京日本教育会館において2023現業活動者集会を開催。わが組合からは関東甲現評役員を含め12名で参加し、全員が清掃分科会に属する資源循環の促進等に関する法律について改めて学習しました。グループ討議では収集と工場に分け、プラ法の改正を踏まえた各自治体の進捗状況について報告を受けるとともに、定年延長制度の施行を間近に控え、各単組から協議状況の報告を受け、60歳以降の職

域の確保（働き方）など、全体で共有し意見交換してきました。引き続き、東京清掃として自治労運動に結集し、組合員の労働条件向上のため取り組んでいきたいと思えます。（栗澤 紀和）



統一自治体選挙の勝利を

公共サービスの再構築にむけて

自治労 東京都本部 2023旗開き



▲多くの各級議員が駆け付けていた

1月12日（木）自治労東京都本部はアルカディア市ヶ谷にて2023年旗開きを開催。自治労組織内吉田・岸参議院議員をはじめ、多くの各級推薦議員も参加して行われました。わが組合からも四役にて参加し、4月に施行予定の統一自治体選挙の勝利に向け、意思統一をいたしました。

4月の統一自治体選挙は、わが組合にとっても、極めて重要な闘いとなります。引き続き自治労に結集し、組合員の処遇改善と全区による継続的な新規採用の実現、公共サービスの再構築にむけて頑張っていきたいと思います。（渡辺 歩）

〇〇〇〇

▼一昨年、昨今の今頃は緊急事態宣言や水際対策もあり、いわゆる「インバウンド」の外国人旅行者はほとんど見かけなかった。それが、昨年10月からの緩和によって、かつての勢いまでには程遠いものの徐々に現れ始めた。結構な事である。素直に「ようこそ、日本へ！」と言いたい。

▼周知のように、今の日本は相変わらずの低賃金にさらに物価高が加わり、とても旅行やちよっとした贅沢などの余裕は我々庶民にはない。日々の生活で手一杯なのだ。それ故に、彼ら裕福な旅行者におカネを使って頂いて、この国の経済を回す事に貢献して頂くのは理に適っている。しかし、外国人の消費に頼らねばならぬこの状況、何とも情けない話ではある。それほどまでに、いつの間にかこの国は安く、貧しくなっていました。

▼物価上昇とともに賃金が上がるのは何も特別な事ではなく、至極当たり前の事。それが果たされぬこの状況こそが異常なのだ。引き続きの闘いで賃金UPを勝ち取り、日本人が日本の旅行を満喫し、存分に買い物できる世の中にしていこう！（台東区担当中執 鈴木 信生）